

## 2019年度 第2回・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議

### 議事概要

1 日時：2020年2月27日（木）13：30～16：30

2 場所：ウインクあいち 1008会議室

3 出席者：

（委員）

| 氏名     | 所属                       | 役職                   |
|--------|--------------------------|----------------------|
| 伊藤 恭彦  | 名古屋市立大学 大学院人間文化研究科       | 副学長                  |
| 加藤 隆弘  | 北陸ESD推進コンソーシアム<br>(金沢大学) | ESDコーディネーター<br>(准教授) |
| 杉浦 真理子 | 株式会社アクト                  | 代表取締役                |
| 彦坂 永利子 | 愛知県教育委員会                 | 生涯学習課 課長補佐           |
| 萩ノ脇 裕司 | 中部地方環境事務所環境対策課           | 課長                   |

※ 古澤委員、戸成委員は、「SDGs あいちシンポジウム 2020」登壇のため、水谷委員は都合により御欠席

（事務局） 福井理事長、清本事務局長、原、富田

（中部地方環境事務所） 溝手係長、西田主査

#### 4 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 地域循環共生圏について 環境省中部地方環境事務所
3. 中部地方ESD活動支援センターの2019年度業務の報告
  - (1)主催イベントの開催について
  - (2)SDGsチェックリストの作成・公開と作成WGによる検証について
  - (3)その他業務について
4. 2020年度業務の事務局展開案の説明と意見交換
  - (1)事務局説明
  - (2)意見交換
5. その他
6. 閉会

#### 5 会議資料

資料1：2019年度業務報告資料

資料2：今年度改善・作成したチェックリスト及びワークショップ用ツール

資料3：地域ESD拠点（3団体）へのヒアリング結果

資料4：次年度イベントの検討資料

参考資料1：ESD活動支援センター全国連絡会関連資料

参考資料2：センターの活動方針

参考資料3：地域循環共生圏について

## 6 議事録要旨

### (1) ご挨拶

#### 【萩ノ協委員】

- 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本会議中の「SDGs あいちシンポジウム」への参加は急遽、取り止めさせていただいた。中部地方環境事務所主催の3月12日開催予定だった「地球温暖化に関する中部カンファレンス」も開催中止となった。本来であれば、カンファレンス開催は19回目を迎え、重要なテーマで開催する筈だった。しかし4月以降に延期開催の予定があり、その際にはぜひ参加をよろしくお願ひしたい。
- このような情勢下で本会議に出席いただき、御礼申し上げます。中部地方 ESD 活動支援センターの設置から3年目を迎えようとしており、多様なステークホルダーの関係構築のための拠点として活動を展開してきたが、これも委員の皆様のお力添えのおかげであり、今後もよろしくお願ひしたい。
- 今回の会議では、本年度の業務を振り返り、課題を明らかにしつつ、次年度に向けた助言などをいただきたい。



### (2) 地域循環共生圏について

- 中部地方環境事務所・担当者による資料「地域循環共生圏について」「EPO/ESDセンターのプレゼンス向上に向けた取組方針（案）＜2020年度＞」の説明。

### (3) 中部地方 ESD 活動支援センターの 2019 年度業務の報告

- 事務局による「資料1：2019年度業務報告資料」「資料2：今年度改善・作成したチェックリスト及びワークショップ用ツール」「資料3：地域 ESD 拠点（3団体）へのヒアリング結果」の説明。

### (4) 意見交換

#### 【伊藤座長】

- 事務局の説明した資料全般について意見や質問等があればいただきたい。

#### 【加藤委員】

- 8月に ESD ダイアログとして開催された北信越ユネスコスクール交流会は、地域の枠を超えた教師たちの交流が生まれているとして評価されている。毎年開催しているが、北信越の教師たちにとっての必要性はより増している。

#### 【杉浦委員】

- ESD の裾野を広げていくための課題については、活動内容そのものよりも予算に関わる話の比重が大きくならざるを得ない。ユネスコスクールになれば助成金を貰えるのではないかと考える学校もあるようだ。学校や活動団体等への予算的な支援はできるものなのか。

#### 【伊藤座長】

- 手弁当では活動継続が難しくなっていく現実がある。どこがどのように資金援助を行っていくことができるかは、活動団体側にとって重要事項である。

#### 【加藤委員】

- 北陸 ESD 推進コンソーシアムは、文科省の助成金を得て活動している。昔は助成金で教師が先進地への視察や研修に行くこともできたが、現在は難しくなっている。おそらく今は、

活動のスタートアップの手伝いはできるが、次のステップへと移行する手伝いは難しくなっている。活動の中興につながる支援や、担当者が変わっても ESD の重要性を説明することができるよう、センターが支援できると良い。担当者の異動により、その団体の ESD 活動が途切れてしまっては勿体ない。

#### 【中部地方環境事務所】

- それぞれの地域には頑張っている活動があり、そうした活動と EPO やセンターが連携した取組を展開することは可能であるが、それは請負の再委託という形となり、一定の手続を要する。なお、次年度は、福井県と富山県に力を入れていきたい。

#### 【事務局】

- 福井や富山などの遠隔地は物理的な距離もあり、地域ニーズにより即した形となるよう、現地の団体と協働で EPO が取組を展開ことになっている。

#### 【伊藤座長】

- SDGs に対する金融機関の関心も高い。ビジネスモデルづくりに積極的に取り組んでおり、例えば名古屋銀行は教育への投資も謳っている。教育などはすぐに回収できない分野であるが、そういった分野についても重視しつつある。

#### 【中部地方環境事務所】

- 金融機関も地域社会に貢献していきたいという動きがある。

#### 【杉浦委員】

- 自社は、福祉サービス分野の企業であるが、税理士が訪問してきた際に SDGs の資料を持ってきて、SDGs に取り組んではどうかと勧められた。その税理士は自分が ESD 等に取り組んでいることは知らずに薦めてくださったようだが、身近な税理士までもが各社をまわりながら SDGs の普及に取り組んでいることが嬉しかった。
- 様々な企業と関わりをもっている社労士や行政書士などが SDGs に関心をもつと、より多くの企業で SDGs に対する関心が向上していくのではないかと感じた。

#### 【中部地方環境事務所】

- 昨年、京都で会計士を対象にした SDGs フォーラムが開催された。愛知県では半田市の弁護士による SDGs 推進の活動があると聞いた。各専門家が SDGs を展開する動きがみられる。

#### 【伊藤座長】

- SDGs チェックリストについてご意見をいただきたい。

#### 【加藤委員】

- 手軽に SDGs について考えることのできる教材として、引き続きブラッシュアップを図ってほしい。また、子ども向けのツールについてもニーズがあるのでは。チェックリストを活用した事例の公開も期待したい。

#### 【杉浦委員】

- 色々な方に使ってもらえるツールにしてほしい。

#### 【伊藤座長】

- 11/4 開催 ESD ネットワーク地域フォーラムでもチェックリストを活用したワークショップが実施されたが、高校生や大人の混合ディスカッションでも問題なく活用できていて良かった。

#### 【事務局】

- チェックリストのみの活用は難しいため、ワークショップでチェックリストを活用する前提で、SDGs ゴールをU字型に配置したワークショップ用シートも新しく作成した。個人個人でシートやチェックリストへの記入を行った後に、それを持ち寄って、次はグループで大判のシートへの記入を行うパッケージにしてみた。このパッケージをフルに活用してもよいし、必要な部分のみを活用することもできる。また、発展段階に合わせた活用も可能となってい

る。

- 交流の現場づくりはお金がかかるため、イベント開催には限度があったとしても、こうしたツールがあれば、各所でそれぞれに活用してもらうことができる。SDGs のカードゲームも流行っているが、SDGs の概要は理解できたとしても、その後のステップへはつながっていないようだ。その点、今回作成したチェックリストやワークシートは、意識づけなどに有効なツールとなっている。

#### 【伊藤座長】

- そのほか事務局から補足したい事項があれば説明いただきたい。

#### 【事務局】

- 「参考資料2：センターの活動方針」を説明。

#### 【中部地方環境事務所】

- 1/30に実施された外部評価会議に、杉浦委員が出席いただいている。どのような話が評価委員から出ていたかぜひ紹介いただきたい。

#### 【杉浦委員】

- 中日新聞の方など計3名の評価委員がいた。昨年度指摘されていた課題に対しは頑張って取り組まれたこと、Facebook ページを立ち上げたことなどについては評価されていた。しかし、これだけの予算に対して見合った成果がないとも評価されていた。特に相談件数が少なく、EPO の知名度をあげる必要があるとの指摘があった。Facebook ページなど無料で発信できるツールがあるため、広報力を向上させる必要がある。
- ESD についてはチェックリストが完成し、これから多様なステークホルダーを巻き込みながら、ESD の拠点として具体的な計画づくりとその実行を期待したい。教育現場やユネスコスクールなどは、ESD センターがどんな支援を行ってくれるところかわかっていない。そのため、センターとしての知名度向上が必要である。また、教育現場やユネスコスクール等とのネットワーク構築も重要である。
- 今後に向けて、事業や広報など多々取り組むことがある中で、優先順位を決めて展開していく必要がある。学生向けのツール作成なども期待したい。スタッフが楽しんで取り組んでいる点については好感がもてる。

#### 【伊藤座長】

- 次年度業務の事務局展開案について、アイデア、ご意見などをいただきたい。

#### 【中部地方環境事務所】

- 次年度に、名古屋市がSDGs 関連のイベントを多数開催する予定があると聞いた。何かイベント予定などがあればご教示いただきたい。

#### 【伊藤座長】

- SDGs 未来都市に選定されたが、名古屋市は何かから取り組むべきか戸惑っているようにも感じた。しかし、4月に学生や企業等が集まるキックオフイベントを開催し、これを受けて10月頃に成果発表イベントを開催する予定であると聞いている。また、愛知県も8月に大規模な出展イベントの開催予定があると聞いている。
- SDGs が盛況になる中で、ESD としてはどうあるべきか。センターは、あえてこの「E」の深掘りを意識した次年度展開を検討してはどうか。

#### 【中部地方環境事務所】

- 三重県において、学生との連携の取組が予定されている。何か具体的な取組アイデアなどはあるか。

#### 【伊藤座長】

- 三重県であれば皇學館大学などがあるが、大学同士が広域的に連携するケースはあまりない。しかし、SDGs 未来都市、及び未来都市候補の地域の学生が集まるサミットを開催してはど

うか。その会合に企業なども招聘すると良いのでは。

#### 【事務局】

- 日進市は多数の大学が立地しており、市主催のフェスティバルには毎年、各大学も出展している。広域エリアでの大学生の交流は良い案に思った。

#### 【伊藤座長】

- 例えば名古屋市立大学など都市部の大学であれば都市課題についてよく知っているが、地方の課題についてはよくわかっていない側面がある。またその反対もあり得る。そうした意味で、広域交流は学生・大学にとって良い勉強の機会となる。

#### 【加藤委員】

- 高校生は総合学習の授業などがあるため、生徒自身の関心があるテーマについて提言したり、活動を実行したりするプログラムが色々ある。また、入試制度改革によって、学校側もその実績づくりに積極的である。
- 石川県であれば七尾市の高校が地元・能登の環境、自然、交通などのテーマについて考え、自分が探求したいものを見つけていく授業を展開している。そうした授業のスタートアップの支援や、プログラムの提案などもセンターが行えると良いのでは。

#### 【伊藤座長】

- 毎年11月に名古屋市で開催される消費生活フェアには、近隣11校ほどの大学も出展しており、最近はやはりSDGsに関連したテーマが目立つ。
- 小学生の交流についてはどうか。

#### 【中部地方環境事務所】

- 小学生などは引率の教師が必須になるため、ハードルが上がると聞いたことがある。

#### 【事務局】

- EPOの外部資金事業の一つに、愛知県の環境学習コーディネート業務がある。SDGsなどに関する出前講座の講師派遣のコーディネートなどを行っている。やはり意識の高い先生からの依頼が多い。この事業では学校側と外部の講師のマッチングを行う際に、学校側のニーズをよくヒアリングした上で、それに見合った授業が行われるよう、講師側とも十分な事前打合せを行うシステムになっている。

#### 【伊藤座長】

- 学校側は、子ども達ではなく教師が困っている。教師を対象にした研修などの支援もあり得るのでは。

#### 【事務局】

- 愛知県のユネスコスクール支援会議は、年2回、教師を対象にした研修を実施している。他の県については情報が入っていないが、北信越の場合は、センター主催のESDダイアログとして、ユネスコスクール交流会を開催している。

#### 【彦坂委員】

- 昨年、センターによる学校へのアプローチが少ないとの指摘をした。確かに学校側の現場は教師の仕事量過多で厳しい状況にあるが、それにも関わらず、教師を対象にした県の研修会は毎回、多数の参加申込がある。
- 教師側の学びたいというニーズは高い。センターがそのつなぎ役となって、教師側の相談に対応できる企画展開を期待したい。センターがハブ機能となるようなイベントの開催を期待したい。

#### 【中部地方環境事務所】

- 愛知県の研修会は、何月開催となっているか。

#### 【彦坂委員】

- 毎年8月、12月に開催している。やはり学校の長期休暇期間中の開催となる。

## (6) その他（「SDGs あいちシンポジウム 2020」の様子について）

### 【彦坂委員】

- シンポジウムで涌井雅之氏の基調講演を拝聴した。その中で「公共」という言葉について、元々、「共」は公権力への抵抗などを意味していたが、今は、「公」と「私」をつなぐものとしての意味をもちつつあるという話があり、印象に残っている。
- また、今後は豊かさを「求める」のみではなく、「深める」社会であるべきという話があり、そうした社会は Society 5.0 や SDGs とも親和性が高いとも仰っており、なるほどと思った。

## (7) 閉会の挨拶

### 【福井理事長】

- SDGs チェックリストはこれで第一歩を踏み出したと思っている。SDGs ウェディングケーキの図では下の土台部分に環境があり、この部分を掘り下げられるツールとなることを、環境省が ESD や SDGs に取り組む意義にもつながるため期待したい。チェックリストによって、それぞれの活動と SDGs ゴールとのつながりが理解できるようになっているが、今後は、活動のインパクトや影響を具体的な指標によって示すことのできる仕組みづくりが必要になると考えている。
- 小学校などの自然体験、林間学校などの機会を提供することは、地域についての学びの機会となるため重要である。また、薄っぺらな SDGs ではなく、SDGs の本質に触れる機会を提供する必要がある。そのことが、今後、地域循環共生圏や気候変動対策等に取り組む際にはますます重要になっていくのであろう。

